

令和2年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	SSRB ディベート発表会
期 日	11月19日(木) 13:20~15:40
会 場	新潟大学教育学部附属長岡中学校 体育館及び各教室
参加者	理数科2年生11人(司会1人、賛成立場5人、反対立場5人)
対 象	新潟大学教育学部附属長岡中学校 中学3年生 (中学1,2年生は自教室にてその様子をオンラインで視聴する)
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本校担当教諭が中学生に対してディベートについて説明する。 2. 体育館で、本校生徒が授業で行ったディベートを実践する。 テーマ「高校制服の制度化」 3. 中学3年生は聴衆となり、ディベート終了後、ジャッジカード(賛成:青、反対:赤)をあげる。代表生徒が、賛成・反対を選んだ理由を述べる。 4. 中学3年生がディベートを実践する。本校生徒は中学生に混ざりジャッジに参加する。ディベート終了後、ジャッジカード(青・赤)をあげ、理由を述べる。 テーマ①「中学生のスマートフォンの持込について」 テーマ②「スーパーの袋の配布について」
	
感 想	<p>■中学生に対して行ったディベートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段こんなに大勢の前でディベートをする機会がないので良い機会になった。自分自身の大きな経験として心に残った。 ・真剣にメモをとりながら聴いてくれてとても話しやすかった。 ・かなり緊張したが、全体に伝わるように意識して話すことができた。 ・中学生からの感想で、わかりやすかったと言ってもらえてよかった。 ・伝えたいことが多いあまり早口になってしまった。優先順位をつけて話すことを心がけたい。 ・いかに聴衆(中学生)を納得させるかを考えながら班員と協力し、データに基づいて組み立てられた。結果としては負けてしまったが、一人一人がこれまで努力を重ね、それを精一杯出せたのでよかった。 ・自分の出身中学校の後輩がどのようなディベートをするのかも肌で感じることができ、たくさんの方に気づくことができた。

■中学生が行ったディベートに参加して、またジャッジとして参加した感想
 ・中学生のディベートのレベルの高さに驚いた。特に「立論」のレベルの高さは、高校生のそれに匹敵するレベルではないかと感心した。「反駁」は難しかったようで、1つの点だけに注目する傾向があった。もう少し広い見方ができればいいと思った。

・用いているデータが信用できる所から引用していたり、具体的な数字を提示していたりして説得力があった。私たちも良い刺激を受けた。

・様々なデータがあり、またグラフまで用意している班もあっておもしろかった。ただ、ジャッジを納得させたり、引きつけたりするような工夫が少なく感じた。また、顔を上げて語りかけるようにするとよりよかったと思った。

・中学生とは思えないクオリティの高さに驚いた。たくさんの情報の中でも、本当に伝えたいことを絞り、また強調したい数値などはゆっくり話したり、話の切れ目で間を置いたりするなど、話し方の工夫もできると説得力が増すと思った。

■今年度、SSHの取組として行った「ディベート」について

○自分自身に付いたと思う力(複数選択可) アンケート回収 10

読解力(さまざまなデータや論文などの文章を読み解く)	5
情報活用能力(情報を収集, 処理, 活用する)	8
課題発見力(現状を分析し課題を発見する)	2
課題解決力(課題を適切に解決する)	2
論理的思考力(物事を論理的に考える)	8
批判的思考力(物事を多面的, 客観的に考える)	5
表現力(自分の考えを英語や日本語で的確に伝える)	10

○感想

・今年度のディベート活動を通して、論理的思考力・批判的思考力は以前より身に付いたと思う。相手の意見の矛盾や不鮮明さ、根拠不足などを見抜き、客観的に考え、自分たちが優位であるロジックを作り上げる。この考え方のプロセスは社会人になっても重要になると思うので、その力を養うことができる良い取組だと思った。来年度以降もこの取組が継続するとういと思う。

・同じテーマのディベートでも、クラスが違う相手とのディベートでは、「立論」がかなり違っていて新鮮だった。

・昨年1年生でクリティカルシンキングトレーニング(CTT)でも行ったが、論理的に意見を組み立てることが難しかった。

・初めてディベートを行ったが、どのデータをどのような順番で出すか、どの数値を使うかなどが聴衆を納得させるカギになると感じた。またこのような機会があれば図やグラフを用意して聴き手に分かりやすいようにしたい。

・その場でうまく伝える力や、相手の意見を整理し反駁するための資料を探す力がついた。

